

< 生 掘 り >

巣が見付かると、この掘り上げが待っている。一頃前までは、夜間、花火を使い、掘り上げ、移巣箱に入れ家に持ち帰っていた。が、前述のように、三宅名人に生掘りを伝授して頂き、この方式に切り替えた。切り替えた当時、昨今、多くの蜂狂が使っている防護服等開発されて居なかったので、『玉葱の袋』を被り、生掘りした。粗末な装備なのでその度攻撃蜂に潜り込まれ顔等幾つも刺された。唇等刺されると鱈子状態になった。見られた物ではない。それでも生掘りを続けた。何故なら、花火をくれ、掘り上げた場合、まだ、巣が小さいと火薬の所為で潰れる事が多かった。それと、生掘りが出来る蜂狂は英雄視される風潮があった。夫々、蜂狂達は独自の防護網を考案した。

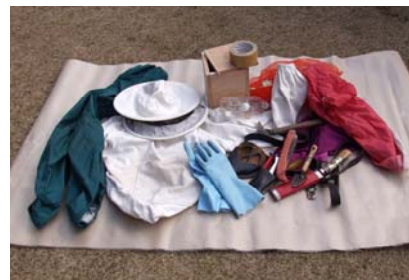
当初、Yは、釣り道具の上州屋から蚊や蛇避けの網を買って来て、これを被った。当然、隙間だらけなので、一寸、大きい巣に出会うと潜り込まれ酷い目にあった。それでも段々に工夫し、ソコソコの防護服に仕上げた。でも完璧ではなかった。仕方なく、10万円も出し、ミツウマの防護服を購入したが、汗をかくとフードが曇り使い物にならなかった。奏功している内に、瑞浪の太田さんの所から画期的な防護服が売り出された。これは優れものだった。以降、これを常用している。不慮の事態に備え、予備まで持っている。以降、多くの蜂狂に買ってやったり、紹介した数50着は下らないだろう・・・

言うまでもなく、生掘りする時までに飼育箱、移巣箱(骨箱)の清掃・整備・備え付けは済ませてある。大体、連休明けから始め、1週間で仕上げる・・・

前置きはこの位にして、生掘りに。毎年の事であるが、第一発目は、若干、緊張する・・・顔等刺されると痛い上、ブクブクの鱈子ちゃんになる…当然、人前に等出られたモンじゃーない・・・6/下~7/上位の内は、攻撃蜂の勢いも大した事はないので、まだ、いい。が、7月も後半に入り、コロニーが拡大すると、中に凄まじい攻撃を仕掛けてくる奴等が居る・・・100匹近くの攻撃蜂に出会うと、幾ら慣れていても、少々、ビビル・・・これが『キイジス』となると尚更攻撃が強い・・・腕が、『キイジス』で真っ黄色になる事がある。それ丈なら、まだ、いい…。中に食い付き、離れない御仁が居る。『軍』でも屢しばしば 出会う。こう言うのは決まって、コロニーがハンドボール・サイズに発展している。最近、上手い方法を考え出した。これは後程・・・

生掘りのポイントを紹介しよう・・・

まず、防護服、合羽ズボン、長靴を着けるのは言うまでもない。それに生掘りの7つ道具を腰、巣穴の近くに用意する。そして、働き蜂の通いを完全に止め、働き蜂を巣内に100匹閉じ込めねばならない。この為に、巣穴の近傍1m位の周辺の地端を棒切れで叩くか足でフンズケ振動を与える。すると、外役に出る働き蜂はピタッと止まる。一齐に警戒態勢に入った証だ。



この作業を5~10回位繰り返して、通い蜂を完璧に止める。これは、働き蜂を完璧に捕獲する為だ・・・そして、生掘りにかかる。Vは、取敢えず、小鎌と剪定鋏を使う。

大体、巣穴の近傍30cm内に巣があるので、周辺から掘り出す。少しずつゴミや土を落とすのがコツだ。間違ってもグイグイ掘ってはならない。ワヤが見え出したら、更に、慎重に掘る・・・今度は大久保鋏やドライバー、小型移植ゴテ等を使う。此処でポイントが。一般的に、ワヤさえ壊さなければ攻撃蜂が噴き出す事はない・・・ハンドボールサイズのコロニーでも攻撃蜂が1匹も出ない事がある。それ程大事だ!!! 攻撃蜂が噴出すような掘り方は、余り上手とは言えない・・・一つのメジャーになる。



仮に、攻撃蜂が出て、また、噴出しても気を落ち着けて、慎重に、且、素早く掘り進める。上手い具合に真ん丸く掘り出せたら、短冊に切った新聞紙(幅5cm、長さ25cm(巣の大きさに応じて臨機応変に替える))を平らの場所に敷き、此処に真ん丸く掘り上げた巣を載せ、新聞紙の両端を持ち巣箱に入れる。新聞紙の端面をパッキングになるよう上手く入れてやる。

且つ、用意しておいた新聞紙を出来るだけ少なく、パッキングになるように詰め、軽く揺すってみる。巣が動かないようであればOK。

一般的には、攻撃蜂が外に出ているので、これを収めねばならない。巣を掘り上げた穴から働き蜂を丁寧に追い出し、此処に風呂敷を敷いてやる。

これは、Vのノウハウで、土に付いた巣の匂いを遮断してやる為だ。こうすると働き蜂の回収が早く、確実にいく。風呂敷を敷いたら、そこに移巣箱に入った巣を置いて働き蜂が付くのを待つ。巣を離れた



働き蜂や攻撃蜂は、巣への執着心が物凄く強いので5分もすれば巣につき、ワイワイの攻撃は治まってしまう。この現象は、当に、狐に摘まれたような感じだ...ヘボの習性だ。一般的にスズメバチ類は、皆、この習性を持っている。100%近く攻撃蜂が入ったら蓋をし、ガムテープでキッチリと蓋をする。そして、先ほどの風呂敷に包み、家に持ち帰る。此処で、2~3注意点を・・・以上の方法でも数匹、場合によっては10数匹どうしても入らない働き蜂が出る事がある。コロニーが大きくなるに従ってこの傾向は強い。

仕方ないから、タモで掬い、回収用のペットボトルに入れてやる。ペットボトルから移巣箱に移すには色々な方法がある。移巣箱の蓋にペットボトルの口位の丸い穴を開けて置き、ペットボトルに回収した働き蜂を上から息で吹き込んで移巣箱に移す方法だとか、飼育箱にセットする時、ペットボトルを少し冷やしてやると静かになるので、大人しくなったヘボちゃんを飼育箱に入れてやると完璧に収まる。また、攻撃蜂がキツイ時は、巣穴の上にペットボトルを伏せ、仮に、ここに入って貰い、掘り上げた後、蓋を外し、巣の近くに置くと、いとも簡単に巣へ移ってくれる。最近開発した方法だ・・・

参考までに、Yは、攻撃蜂の巣箱に入らないのをペットボトルで回収している。数が5~10匹と少ない場合、これで十分である。結構上手くいくよ・・・Yは、年間、お他人様のも含めて50巣位振り上げているので、大体、ノウハウが、把握出来た。余程の事が無い限り、真ん丸く振り上げられるようになった。焦る事もない。



< 警戒態勢と攻撃態勢 >

巣を見付け、巣の周りでドスドス歩いたりすると急に通いが悪くなり、出稼ぎに出掛けるヘボちゃんが無くなる・・・危険を感じ取り守備態勢に入って証拠である。この時、数匹から10数匹の警戒蜂が巣穴から出て、辺りを警戒し飛び回る事もある。暫くすると、一斉に巣に帰る。やや巨大な巣になると、巣穴の入り口に警戒蜂が屯して警戒に当たる事も屢だ・・・



また、昨年(2005年10月)こんな事があった。ドクターがヒョッコリYの家に来た。数時間ヘボ談義をした後、『小林さん、飼っている蜂の箱を開けて見たいが・・・』と来た。最盛期の巣を生で開ける話はドクターから会う度聞いていたので、ハハシ・・・

『来たな!!!・・・』と思った。此方も興味があった。写真も撮りたかった。

『いいよ・・・』と言うと、『本当???・・・嬉しいナー。。。』と来た。

もうドクターは防護服を被り、トットと入母屋造りや合掌造りの飼育箱の屋根を持ち上げていた。想像以上に攻撃蜂は出なかった。



寧ろ、大方のヘボは守備固め：警戒に入っていた。中には、飼育箱の底まで展開しているコロニーもあったが、殆どの働き蜂は、ワヤの周りに付いていた。意外な習性を持っている。

一方、生掘りを出すと、一般的にはコロニーを略奪に入った敵を懲らしめんと、攻撃態勢に入る。ソフトボールからハンドボールサイズになると攻撃はキツイ・・・猛然と網にブツカッて来る・・・バシバシ来るのが判る・・・中には、防護服に噛み付いて尻を持ち上げ、攻撃を加えている御仁も居る。ワヤでも壊そうものならもういけない・・・攻撃蜂が噴き出してくる・・・次から次へとムクムク出て、一斉に飛び付く。一番危険を感じる瞬間である。これが、『キイジス』ともなると、更に、攻撃はキツイ・・・

察するに、数匹が攻撃を加え、注射液が発射されると、これが攻撃ホルモンとして認知され、コロニーはシツチャカメツチャカ豪い騒ぎになる。

この状態が攻撃態勢だ・・・生掘り時、知っておくと都合がいい・・・